

連載コラム



第22回

シロチョウとアゲハチョウ



もとよし ふさお
本吉 總男

2016年4月

虫たちが活動を始める季節が来ました。わけてもサクラの開花に先がけて現れるモンシロチョウを見ると、多くの人々は春の到来を実感することでしょう。しかし、その時に感じる気持ちは人によって様々で、俳人たちの句からもそれが察せられます。

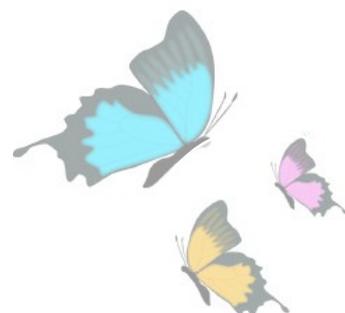
初蝶や	吾が三十の	<small>そでたもと</small> 袖袂	<small>はきょう</small> 石田波郷
初蝶を	見し束の間の	かなしさよ	松本たかし
白蝶々	飛び去り何か	失ひし	細見綾子

歌舞伎舞踊の「春興鏡獅子」で、春に興じて踊るお小姓弥生を導いて獅子に変身させる二羽の蝶も、アゲハチョウやタテハチョウではなく、ひらひらと舞うシロチョウではないかと想像しております。

モンシロチョウは、世界各地に広く分布するチョウで、日本でも最も普通に見られます。春の到来を告げるチョウとして、気象庁による生物季節観測の対象に指定されており、桜前線に先がけて、モンシロチョウ前線も南から北に移動していきます。モンシロチョウはシロチョウの仲間(シロチョウ科)で、モンキチョウ、キタキチョウ、ツマキチョウなどもこの仲間です。

ちょう蝶は春の季語。そして主としてシロチョウの仲間が該当します。ひらひらと飛ぶ可憐な姿はいかにもうららかな春の象徴です。チョウにもタテハチョウ、ジャノメチョウ、マダラチョウ、シジミチョウ、セセリチョウなどいろいろな科がありますが、シロチョウの仲間と最も対照的なのは、派手で活発なアゲハチョウの仲間(アゲハチョウ科)であろうと思います。

アゲハチョウの仲間には、年に1回だけ発生するギフチョウやウスバアゲハ(別名ウスバシロチョウ)などを除いて、それぞれ春型と夏型があります。春型は小型であまり目立ちません。これに対し、夏型は大きく、派手で、力強い。あげはちょう揚羽蝶は夏の季語。「夏の蝶」という季語も使われますが、これも主としてアゲハチョウの仲間が該当します。





あ あげ は ちょう
 蔭を出て 光に衝たる 揚羽蝶
たに おおあげ は ちょう
 溪下る 大揚羽蝶 どこまでも
 夏蝶の 高みより影 おとしくる

山口誓子
だ こつ
 飯田蛇笏
 久保田万太郎

古くはチョウを胡蝶といい、例えば中国では、莊子(紀元前300年代の思想家)が胡蝶になった夢を見て、自分と蝶の区別がつかなくなったという故事から、現実と夢の区別がつかないことを「胡蝶の夢」といいます。こんな古い話があるのに、万葉集には蝶を詠んだ歌はありません。美しいものに敏感な万葉人が蝶を詠まなかったのは不思議な事です。しかし、平安時代になると、こちょうらく胡蝶楽という和製の雅楽が作られます。蝶の羽を背中につけて4人の童子が胡蝶の舞を舞います。源氏物語の中でも「胡蝶」の巻の中に、「鳥のらく楽」とともに華やかに「こちょうらく胡蝶楽」が舞われる様子が描かれています。童子が背につける胡蝶の羽はアゲハチョウを想起させます。また平安時代から鎌倉時代に公家や武家の間に定着した家紋には、昆虫を題材とするものは少ないですが、アゲハチョウはその華麗さからか、いろいろな型にデザインされています。

今回は、みずき野周辺に見られるシロチョウとアゲハチョウの仲間について述べることにします。

1 シロチョウの仲間

(1) モンシロチョウ

3月中旬になると、越冬したさなぎ蛹から、モンシロチョウが次々と羽化して、菜の花畑をひらひら飛ぶようになります。上述のように、その姿は春の到来を実感させるものです。

モンシロチョウの幼虫(アオムシ)は、いろいろなアブラナ科の植物を食べますが、わけでもキャベツが大好きです。ハボタンもキャベツと同属ですので、好んで食べます。英語ではモンシロチョウのことをキャベジ・ホワイト・バタフライ(cabbage white butterfly)と呼んでいます。

肉眼では雌雄の区別をつけにくいのですが、雄の翅^{はね}は紫外線を吸収し、雌の翅^{はね}は紫外線を反射するので、紫外線カメラでは、雄の翅^{はね}は黒く、雌の翅^{はね}は白く写ります。成虫は年数回発生し、晩秋にも見ることができます。



モンシロチョウ 3月中旬 貝塚地区

なお、モンシロチョウによく似た種にスジグロシロチョウがいます。モンシロチョウより翅^{はね}の脈が黒いので区別でき、また、雄は独特の臭いを発します。幼虫はやはりアブラナ科植物を食べます。もとはごく普通に見られるチョウだったのですが、近頃は、あまり見かけなくなりました。残念ながら、写真を撮っていません。

(2) ツマキチョウ

ツマキチョウは、モンシロチョウに次いで、春に出現するシロチョウの仲間です。幼虫はタネツケバナやナズナなどのアブラナ科植物につきます。ダイコンにもつきます。成虫はサクラの咲く頃から5月上旬頃まで年1回発生し、毎年目撃しておりますが、近頃は数が減っているように思います。モンシロチョウより小さく、春にふさわしい可憐なチョウです。雄は前翅の先端が黄色く、雌は白いので、雌雄の区別は容易です。



ツマキチョウ(雄) 3月下旬 本町地区



ツマキチョウ(雌) 5月上旬 3丁目東隣接地

かつて、ドイツの名ピアニストのヴァルター・ギーゼキングが演奏のため夫人とともに来日したとき、「日本にはツマキチョウがいるのか、それは素晴らしい」と言ったという話を聞いたことがあります。ギーゼキングはチョウの愛好家でもありました。

(3) モンキチョウ

モンキチョウは東アジア原産のチョウで、やはり3月中・下旬頃から見られ、年数回発生し、晩秋まで見られます。幼虫は野生のマメ科植物につきます。



第2調整池の土手から、モンキチョウのおもしろい姿を見たことがあります。黄色いモンキチョウを白いモンキチョウが追いかけて飛んでいるのです。モンキチョウの雄は全てが黄色、雌は黄色と白色

モンキチョウ 10月中旬 3丁目東隣接地

の2つの型があり、前方を飛ぶ黄色のチョウを追いかけているのは白いチョウですので、雌が雄を追いかけているということになります。モンキチョウの雌雄が追飛するとき、雌が雄を追いかけるのだそうです。珍しい習性です。



モンキチョウの追飛 前が雄、後が雌 7月下旬 第2調整池

(4) キタキチョウ

以前は単にキチョウと呼ばれていたものですが、近年、キタキチョウとミナミキチョウという2つの種に分けられました。キタキチョウは本州、四国、九州、南西諸島に産し、ミナミキチョウは南西諸島以南に産します。キタキチョウの幼虫はネムノキ、ハギなどのマメ科植物を食べます。



キタキチョウ 8月中旬 8丁目東隣接地

キタキチョウは花に止まる他、湿った地面に降りて吸水します。地面に降りて吸水している群れに出会うこともあります。

2 アゲハチョウの仲間

(1) ナミアゲハ

ナミアゲハは翅はねに黒と白(または薄黄色)のくっきりとした縞をもつ美しいチョウです。アゲハチョウの名はアゲハチョウの仲間の総称として使われますが、ナミアゲハを特にアゲハチョウまたはアゲハと呼ぶことがあります。日本のアゲハチョウを代表するチョウといってもいいでしょう。日本のほか、韓国、中国、台湾にも分布しています。幼虫はサンショウや柑橘類につきます。



ナミアゲハ 6月下旬 本町地区

(2) キアゲハ

キアゲハはみずき野周辺にもっとも多いアゲハチョウで、ナミアゲハによく似ていますが、翅の斑紋が黒と黄で構成されています。しかし、黄色が薄い個体もあり、ナミアゲハと間違えることがあります。日本全土でごく普通に見られますが、アジア、ヨーロッパにも分布しています。幼虫はセリ科の植物を食べます。



キアゲハ 9月下旬 本町地区



キアゲハ 淡黄色の型 9月下旬 上高井地区

(3) アオスジアゲハ

アオスジアゲハは黒地に青い帯が前翅と後翅を貫いて走り、アゲハチョウの中では、もっとも美しいチョウのひとつです。非常に敏捷なチョウでその姿を写真にとらえることは難しいのですが、路上に降りて吸水することがあり、そのときは、比較的たやすく撮影することができます。日本には北海道を除く各地に生息し、また東アジアや東南アジア一帯に分布しています。幼虫はクスノキ科の植物の葉を食べます。みずき野周辺では、クスノキやシロダモを食樹にしているのではないかと思います。



アオスジアゲハ 5月中旬 本町地区

(4) クロアゲハ

クロアゲハもみずき野周辺でごく普通に見られるアゲハチョウです。東アジアの温帯から亜熱帯に分布し、幼虫は柑橘類の葉を食べます。



クロアゲハ 8月下旬 本町地区

(5) ナガサキアゲハ

ナガサキアゲハは東南アジアから東アジア亜熱帯、温帯に分布する南方系の黒いアゲハチョウです。日本ではもともと南西諸島、九州、四国、本州の中国地方にしかいなかったチョウですが、近年、次第に生息範囲を広げつつあります。茨城県南部ではおよそ10年前から増え始め、今では普通に見られるチョウになりました。

下の写真のナガサキアゲハは雌で、^{ぜんし}前翅に赤い三角の斑点、^{こうし}後翅に数個の白い斑点が並んでいます。雄は^{はね}翅全体がほとんど黒色です(残念ながら、写真を撮っていません)。ナガサキアゲハには他のアゲハチョウに見られるような^{こうし}後翅の尾状突起がないので、クロアゲハや、他の黒いアゲハチョウとの区別がつかます。幼虫は柑橘類の葉を食べます。



ナガサキアゲハ(雌) 7月上旬 貝塚地区

クロアゲハやナガサキアゲハ以外の黒いアゲハチョウとしては、カラスアゲハやジャコウアゲハが平地でも見られますが、みずき野周辺では目撃したことがありません。カラスアゲハの幼虫はカラスザンショウやコクサギを、ジャコウアゲハはウマノスズクサを好むので、みずき野周辺にはこれらの食樹・食草

がないか、不足しているのかもしれませんが。

しかし、守谷市内にも、カラスアゲハもジャコウアゲハもいることが確認されています（「もりやの自然史」守谷町自然調査会編集 守谷町教育委員会発行 平成12年3月）。したがって、みずき野周辺でもこれらのチョウに出会う機会があるかもしれません。これからも、黒いアゲハチョウに注意を向けていきたいと思います。